

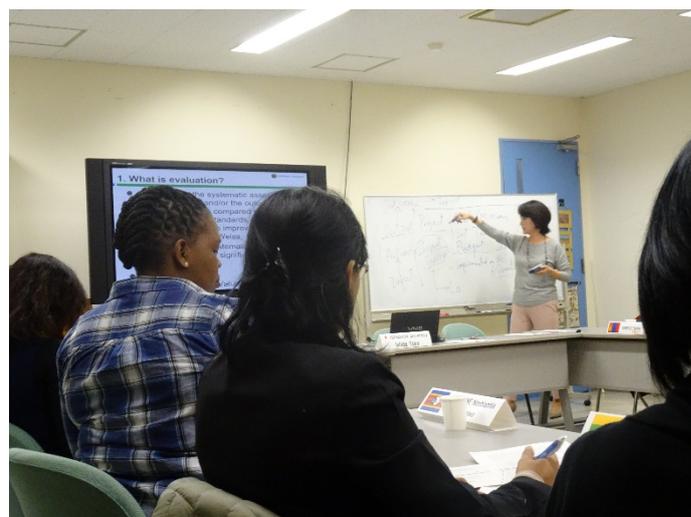
11月14日(木)

本日は、広島大学大学院教育学研究科の桑山尚司先生による日本の授業研究に関する講義と石田先生による評価に関する講義、二つの講義が行われました。

午前中の桑山先生の講義では、日本の授業研究の実践のビデオや、指導案や授業記録のサンプルを提示し、授業研究とは何か、日本では実際にどのようにして授業研究が行われているのか等、説明されました。日本の研究授業実践のビデオを視聴している際、研修生は大変熱心に見ており、実践内容に感心している様子でした。その後、授業研究のよさや困難な点について意見交換を行い、そこで二つの疑問が出ました。一つ目は「自国で教育問題を改善するための指針として授業研究をどう用いることができるか」二つ目は「その計画した内容をどう評価するか」でした。講義の後には、研修員から先生へ質問が活発にされていました。



午後の石田先生の講義では、評価の目的や重要性や評価がどう行われているかを文部科学省のホームページを提示しながら丁寧に説明されました。また、広島大学で授業評価が実際にどのように行われているか等に関しても話されました。Evaluation, Assessment, audit など似た意味を持つ言葉の整理を行った場面では、活発な意見交換がなされました。



最後のリフレクションでは、二つの講義でのポイントをふまえて、主に各国の現状に合う授業研究について議論が交わされました。

